

令和6年11月5日
国土交通省九州地方整備局
遠賀川河川事務所

季節外れの大雨で河口堰に今年一番のゴミが漂着!!

～11月1日・2日の雨で遠賀川河口堰に漂着したゴミを回収しています。～

11月1日深夜からの大雨の影響により、遠賀川河口堰に大量のゴミが流れ着きました。漂着したゴミを放置した場合、水質などの河川環境を悪化させるだけでなく、河口堰ゲート操作への支障や、海岸へ流出する恐れがあるため、水面からの回収作業を進めています。

なお、今回の大雨だけで概算で4,000m³、小学校25mプールにして16杯分となります。



塵芥捕捉施設への漂着状況(11月5日撮影)



ゲートへの漂着ゴミ(11月5日撮影)

ゴミの多くは草木類です。その他ペットボトル、発泡スチロール等の生活ゴミですが、様々な種類のゴミが混在しています。

遠賀川はみんなの川です。その水は多くの人々の飲み水としても利用されています。今後も流域内の関係機関や住民団体等と連携し、ゴミ問題に取り組んでいく考えです。

【投げ込み先】 ○北九州地区

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所

管理課長

古長 久典 (遠賀川河川事務所)

TEL 0949-22-1830

河口堰管理支所長

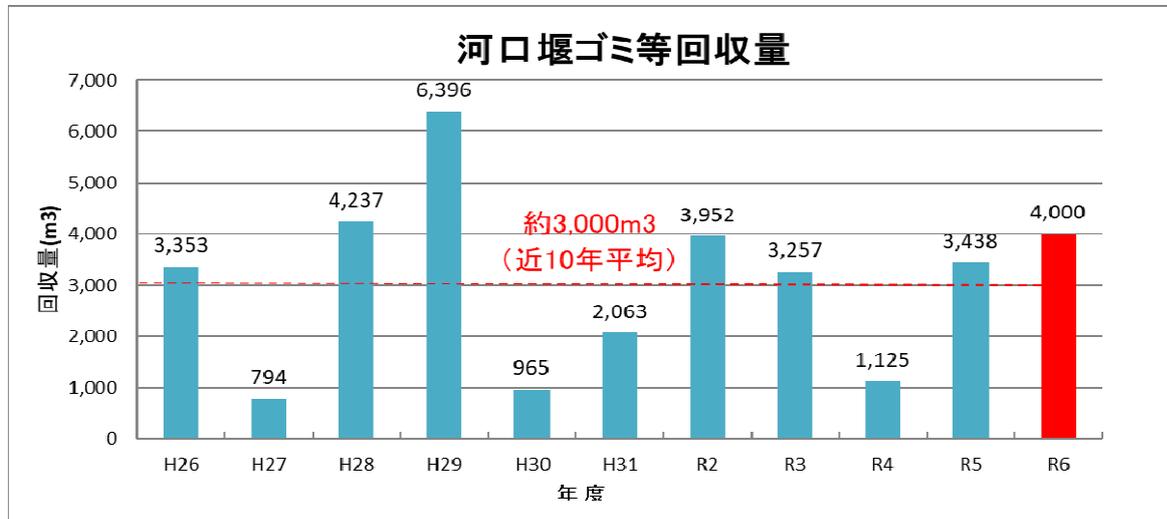
松川 浩 (河口堰管理支所)

TEL 093-201-1675

(参考資料)

○近年のゴミ等回収量

遠賀川河口堰は、水巻町と芦屋町にまたがる九州で最大(長さ517m)の可動堰です。遠賀川の河口から2kmに位置する河口堰には、洪水になる度に遠賀川流域のゴミが大量に流れ着きます。その量は洪水の規模や回数に左右されますが、過去10カ年の河口堰で回収したゴミの量は、下のグラフのとおりです。



○ゴミ等の回収方法

作業船によりフェンスで囲ったゴミを岸の方へ引き寄せて、バックホウで陸揚げして乾燥させた後に、可燃物・不燃物等の9種類に分別して処分を行います。

(1) 作業船とフェンスにて回収



洪水が落ち着いて、網場のゴミを岸に引き寄せる作業船(こすす号)。

(2) バックホウにて陸揚げ



岸に引き寄せたゴミをバックホウで陸揚げしてダンプで平地に移動する。

(3) 敷ひろげ、乾燥



平場でゴミの分別と乾燥のため、バックホウで敷ひろげる。

(4) 手作業で分別し処分



手作業でゴミの分別を行い、ゴミごとに処分場へダンプで搬出する。

分別種類

① ペットボトル



② 金属



③ 廃タイヤ



④ 発泡スチロール



⑤ ガラス・陶磁器類



⑥ 木屑(木・幹・根株)



⑦ 可燃物



⑧ 廃プラスチック



⑨ 塵芥(草類)



○ゴミ対策(塵芥捕捉施設の設置)

流れてくるゴミによる、河口堰ゲートへの衝突防止やゴミの回収を効率よく行う為、遠賀川河口堰の上流250m位置に、長さ203mの塵芥捕捉施設(網場)を設置しました。

設置後の洪水では、全体回収量の6~7割を塵芥捕捉施設にて回収しています。

上流より河口堰を望む

